

市民参加型まちづくり1%システム

# 事業成果発表会

と き：平成27年5月9日（土）午後2時

ところ：ヒロロスクエアコミュニケーションゾーン

## 次 第

1. 開会
2. 成果発表
3. 総評
4. 挨拶
5. 閉会



【担当】 弘前市市民文化スポーツ部  
市民協働政策課 市民協働係

# 事業成果発表会予定表

No.	事業名	団体名	開始時刻
開 会			
1	イルミネーション&ねぷたロード整備事業	和徳町大通り町会	14:05
2	大仏公園紫陽花まつり	石川町会	14:15
3	PECSロゴステッカーを拡散して、ASDの方の外出を推進するプロジェクト (略称：PECSロゴステッカー拡散プロジェクト)	あおもり PECS 研究会 弘前支部	14:25
4	弘前市民の森で元気になろう	弘前市民の森の会	14:35
5	岩木山エコプロジェクト	岩木山観光協会	14:45
休憩15分(14:55~15:10)			
6	大開町会納涼祭り	大開町会	15:10
7	青少年健全育成・地域づくり・地域世代間交流事業 「第1回 津軽の伝統文化と昔の遊びに触れてみよう」	時敏地区 青少年育成委員会	15:20
8	N響メンバーと合同で演奏するチェロアンサンブル	ひろさき チェロアンサンブル同好会	15:30
9	ひろさきを絵手紙にして知ってもらおう ワークショップ「こころを伝える ひろさき絵手紙展」	津軽ひろさき マーチング委員会	15:40
10	文化周知のためのイベント開催	ういっちたいむ！実行委員会	15:50
11	「やりたいことをやらなくちゃ」プロジェクト	Hiomaru	16:00
総 評			
閉 会			

## 事業目的

和徳町の県道沿いは、弘前市で最初の中心市街地であったと言われている歴史的背景を後世に伝える。また、町会住民の合言葉である「ふれあいの輪」を広げ、町会活性化を図る。

## 事業内容

町会の宵宮期間やねぶた祭り期間、エレクトリカルファンタジー期間などに合わせ、町会の青年部が中心となって骨組みを作製し、和徳児童館の子ども達を中心とした町会住民が描いたねぶた絵を貼り付けたねぶた灯籠とイルミネーションを町会内県道沿いに設置した。イルミネーション未設置区間でも各家庭でイルミネーションを設置するなど、地域で活動を盛り上げた。

- 事業実施場所：和徳町大通り町会内
- 事業実施期間：平成26年7月1日～平成27年3月15日
- 参加者数：のべ156人
- 補助金確定額：453,000円（事業費：504,335円）

## 事業による効果

町会全体が事業に関心を持ち、特にイルミネーションについては、町会内の数企業が自主的にイルミネーションで装飾するなど、歴史ある和徳町の県道沿いがに光があふれた。また、児童館の児童と町会青年部が中心となって作製しねぶた灯籠を設置したことによって、町会の「ふれあいの輪」の広がりの一助となった。

## 今後の活動展開

2カ年計画で整備を行ってきたので、今後は町会事業として、継続してイルミネーションの点灯とねぶた灯籠の設置を行っていき、明るく活発な町会イメージを高めていく。

## 自己評価

町会内の企業や、イルミネーション未設置区間の家庭の協力により、未設置区間内にもイルミネーションが設置することができた。また、ねぶた灯籠製作を通して、町会内で「ふれあいの輪」が広げることができた。



ねぶた灯籠作成中



イルミネーションとねぶた灯籠の設置

## 事業目的

大仏公園が整備されたのを機会に、公園と園内に咲くあじさいを広く知ってもらい、近隣地域との交流による地域の活性化と弘南鉄道大鰐線の利用につなげる。

## 事業内容

7月1日～31日の1か月、紫陽花まつりを開催し、まつり期間中はチェックポイントクイズや写真コンテスト、俳句・短歌コンテストの募集を行った。また、特別イベントとして、20日に紙ひこうき大会と、ジャズの演奏や津軽三味線の演奏、民謡の余興を行い、多くの方が大仏公園を訪れた。

- 事業実施場所：石川大仏公園
- 事業実施期間：平成26年7月1日～31日
- 参加者数：3,115人
- 補助金確定額：278,000円（事業費：332,941円）

## 事業による効果

町会内では、チラシを每户配布し、ポスター掲示を各所に掲示するなど、町会全体で紫陽花まつりを盛り上げ、近隣地域とは紫陽花まつりを話題にすることによって交流を図ることができた。

## 今後の活動展開

多くの方が紫陽花の花を目的に来園していることから、紫陽花の見頃を見極めながら祭り期間を決め、将来的にはいつでも自由に散策できるようなまつりにしていきたい。

## 自己評価

巡回の際に直接話を聴いたりしたこと、町会住民以外の人にも大仏公園に対する思いがあることがわかった。保育園や幼稚園の公園利用が見られるなど、多くの市民に大仏公園を知ってもらい、素晴らしさをアピールすることができた。



一面に咲く紫陽花



紙ひこうき大会の様子

## 事業目的

多くのASDの方やその保護者がもっと外出したいと思っている反面、コミュニケーションなどに不安を抱え、多数派の人と同じような外出の機会が乏しいことから、コミュニケーション能力に障がいを持つ方々の余暇活動の場を広げ、街の一人ひとりが安心して楽しく外出できるまちづくりを進める。

## 事業内容

「自閉症支援でまちづくり」を継続していくための仕掛けや仕組みとして、月1回以上の商店街の街ぶらや買い物の機会の創出や、カルチャアロードでのPECS（ASDの方などに使用されている絵カード）体験、チャレンジド（障がいを持つ方）への接客・おもてなし体験のほか、自閉症やダウン症のある子どもを持つ母親のみなさん（キャラバン隊）による公演などを行った。

- 事業実施場所：弘前市内
- 事業実施期間：平成26年7月1日～平成27年3月31日
- 参加者数：109人
- 補助金確定額：215,000円（事業費：239,094円）

## 事業による効果

継続的な街ぶら・買い物体験を通じて、自閉症のある方とお店の方がお互いに理解を深め安心感をもたらすことができたほか、PECSがまちなかでも実用的で多くの人にとってわかりやすいツールだという認識を広げることができた。また、キャラバン隊による公演で自閉症やダウン症についての理解を広め、深めることができた。

## 今後の活動展開

チャレンジドの方への接客・おもてなし体験を行い、協力店舗を増やすほか、障がいがある方に対し、弘前のまちなかの魅力を伝え、街ぶらや買い物をサポートする「まちなかガイドサポーター」を養成し、よりよい弘前のまちづくりを進める。

## 自己評価

お店や周りにいる人の理解を深め、ASDの方の生活の幅や質を高めることと、まちなか全体のクオリティを高めるというコンセプトのもと、継続的かつ定期的な街ぶら機会を創出し、お店とお店を利用する側がお互いに安心することができた点から、一定の効果と実証を感じることができた。



PECSの周知活動



キャラバン隊による公演

## 事業目的

ストレスが多い現代社会において、自然の景観など、環境が整った「弘前市民の森」に足を運んでさまざまな体験をしていただくことで、多くの市民の心身の健康と生き甲斐づくりのきっかけにしよう。

## 事業内容

5月～10月の間、市民の中から参加者を募集した。直接会場まで行くことができない参加者については送迎を行い、市民の森で森林散策や畑作り・押し花作りなどの園芸、陶芸などの芸術を体験してもらった。また、認知症やうつ病の増加防止についての研修会や健康セミナー、料理教室を開催し、心身の健康についての理解を深めた。

- 事業実施場所：弘前市民の森
- 事業実施期間：平成26年4月5日～平成27年3月25日
- 参加者数：304人
- 補助金確定額：140,000円（事業費：232,524円）

## 事業による効果

継続的に参加した人の中には、森林散策による心と体の変化（体力の向上など）が見られる人もいた。また、ボランティアとして参加している学生と高齢の参加者が世代間交流をすることによって、お互いに助け合っているという心が芽生えるなど、気持ちに変化が見られた。

## 今後の活動展開

参加者には書面を渡すなど、活動についての理解を深めてもらう。また、今後は専門家の協力を得ながら、市民の森が健康づくりの森として活用されるように活動を進めていきたい。

## 自己評価

講演会や研修会等によって、参加者の健康に対する意識が変化するなど、市民の健康への意識向上の効果をみることもできた。また、広く事業への信用を得られていると実感できるようになってきた。



森林散策や園芸体験



健康に過ごすためのセミナー

## 事業目的

岩木山は美しい山であるのに、登山客やトレkkerから山中に廃棄物が目立つという話が多く寄せられる状況であるため、美化活動と啓発活動を行い、岩木山の環境保全を目指す。

## 事業内容

主に岩木山麓の遊歩道とその周辺で、大型不法投棄物の收拾処分を行った。また、登山道のごみの状態や地元住民の意識などについてのフォーラムや、活動記録の写真展示、岩木山に係っている活動家同士の話し合いの場を設けるなどの啓発活動を行った。

- 事業実施場所：岩木山麓及びその周辺
- 事業実施期間：平成26年7月1日～平成27年1月30日
- 参加者数：220人
- 補助金確定額：494,000円（事業費：549,867円）

## 事業による効果

美化活動には、構成員以外の参加者が80人以上おり、これまで参加している人たちの中では、継続して実施しようという意識が強くなっている。また、地域の中でも活動への評価が高まっており、不法投棄に対する意識の面で効果があったと考えている。

## 今後の活動展開

活動を継続していくためにコンセプトを整理することが必要と考える。また、活動への参加者とごみを捨てる人とは、意識の差が大きいと感じたため、マスコミを利用するなどして、実態を外へ発信することにも力を入れていきたい。

## 自己評価

活動について広く周知を試みているものの、結果的に依然とごみが不法投棄されているのが実態である。



山の中にはさまざまなゴミが・・・

1日でできたごみの山

## 事業目的

高齢者世帯や核家族が増加していることや、新興住宅街的な要素があり転入・転出世帯が多いことから、近所との交流が少ない環境であるため、住民同士のふれあい・親睦を図り、今後のさまざまな町会活動等への参加を促す。

## 事業内容

三味線や手踊りなどの郷土芸能のほか、子どもたちが楽しめるゲームやカラオケ・演芸などを行う納涼祭を開催した。広報活動として子どもたち手作りのポスターを地域の店舗等に掲示するなど、準備段階から住民が積極的に参加し、地域連携の意識を高めた。また、日頃から閉じこもりがちな高齢者も祭りに参加できるよう、送迎車を用意した。

- 事業実施場所：清水交流センター
- 事業実施日：平成 26 年 7 月 27 日
- 参加者数：280 人
- 補助金確定額：109,000 円（事業費：460,644 円）

## 事業による効果

納涼祭が地域の行事として定着し、祭りを盛り上げるために住民から積極的に提案や協力をするようになってきており、地域内で連帯感が生まれてきた。また、近隣町会からの参加者も増加し、交流の輪が広がった。

## 今後の活動展開

子どもや若者が楽しむことができるような内容を加えたり、開催時間を工夫するなどの改善をする。また、町会役員を通じ、さらに近隣町会も含め若年者に祭りの手伝いを依頼し、祭りの広域化への足掛かりとする。

## 自己評価

近隣町会からの参加者が増加し、親睦による交流の拡大、連帯感の形成という目的について、おおむね進展したと考える。



さまざまな世代の参加者が集まりました



事業目的

日頃子どもたちが見聞きしたり体験することが少なくなった津軽の伝統文化に接してもらい、地域の高齢者との交流を通じて昔の遊びを楽しんでもらうことで、地域の子どもたちを地域で守ることや、子どもたちの健全な成長の一助となることを目指す。

事業内容

①津軽弘前に伝承される津軽三味線・津軽囃子等の演奏鑑賞と実技体験や、津軽どだればち踊り体験、生け花、お茶の実技鑑賞と実技体験、弘前藩伝承の古武道の演技鑑賞を行い、伝統文化とは何かを考えてもらう場を創出した。

②津軽弘前の昔遊び体験（おはじき、おてだま、あやとり、ビー玉、折り紙、すぐり、けん玉、紙ひこうき、めんこなど）を、時敏地区内の高齢者を中心に協力してもらい、子どもたちと一緒に遊び、世代間交流を図った。

- 事業実施場所：時敏小学校
- 事業実施日：平成26年10月18日
- 参加者数：212人
- 補助金確定額：371,000円（事業費：438,885円）

事業による効果

子どもたちや地域の方々目の前で津軽三味線、津軽囃子、あるいは津軽ト伝流剣術などが披露され、参加者からは感動を受けたとの評価があった。また、地域団体関係者（青少年育成委員会、民生委員、町会長、学校関係者など）が一体となり事業を行うことができた。

今後の活動展開

多くの関係者から、より多くの生徒に参加してもらいたいとの意見があったことから、事業の拡大展開を図りたい。

自己評価

参加者から楽しかった、有意義だったという声があったことや、おおむね計画通りに進行し、事故なく終了することができた。



伝統文化を間近で見る迫力！



メンコ（ビダ）に夢中な子どもたち

## 事業目的

土手町で入場無料のコンサートを行うことで、これまで音楽を聴く機会が少なかった市民に気軽に一流の音楽を聴いてもらえる機会を作り出し、地域全体の文化向上の一助とする。

## 事業内容

NHK 交響楽団の演奏会が弘前市で行われることと、楽団のチェロセクションに弘前市出身の方がいることから、プレコンサートとして、市内のアマチュアチェロ奏者とNHK 交響楽団のチェロ団員6名との合同の演奏会を開催した。

- 事業実施場所：土手町コミュニティーパーク
- 事業実施日：平成 26 年 10 月 4 日
- 参加者数：220 人
- 補助金確定額：179,000 円（事業費：218,103 円）

## 事業による効果

普段は演奏会に出向くことが困難な小さな子ども連れの方など、さまざまな世代の市民が来場し、一流の演奏を間近で気軽に聴く機会を創出することができた。

## 今後の活動展開

今後も地元出身の三戸氏との交流は続く予定であるため、このような活動を定期的に続けていき、弘前市の芸術文化の向上や地域活性化に貢献できるよう、活動を続けていく。

## 自己評価

演奏するアマチュア演奏家も、多くの一流プロ奏者と共演することによって、高いモチベーションで演奏を行うことができた。



上から見た演奏会の様子



演奏会のチラシ

## 事業目的

気軽に絵手紙を描く手法を知ってもらい、絵を描くために弘前のまちの魅力を探すことによって、弘前の街並みを保存し、大切に作る意識を高める。また、メールとは違う心の温かさが伝わる絵手紙を、全国に向けて発信することによって、弘前の良さをつなげていく。

## 事業内容

前川國男設計である市民会館を会場とし、ひろさきの街並みを描いた水彩画のイラストを展示し、会議室ではワークショップ形式で絵手紙教室を行った。絵手紙は、「ひろさき」をテーマに描かれ、作品は1週間ほど展示した後、参加者に実際に絵手紙として送ってもらった。

- 事業実施場所：弘前市民会館
- 事業実施期間：平成26年10月1日～平成27年2月20日
- 参加者数：100人
- 補助金確定額：309,000円（事業費：359,406円）

## 事業による効果

弘前ならではの地域資源を絵手紙の素材に使用したことにより、まちの新たな発見をした参加者も多く、さらに弘前に興味を持ってもらうことができた。弘前市民が街に誇りを持ち、絵にして弘前を発信することができた。

## 今後の活動展開

若い人にも興味を持ってもらえるような告知方法や動機付けを考えていながら、絵手紙教室を継続していきたい。

## 自己評価

絵手紙教室の1日目と2日目で、講師の方が教え方を変えるなどしながら、絵手紙を描く楽しさを伝えることができた。また、弘前のまちを再発見する喜びを伝えることができた。



絵手紙教室の様子。「ひろさき」を絵にします

実際に描いた絵手紙を展示

## 事業目的

「クールジャパン」と呼ばれ国際的に評価されている一方、一般的には理解されにくく閉鎖的である日本のアニメや漫画、ゲーム等の「サブカルチャー」を、ひとつの文化として広く市民に知ってもらう場を提供する

## 事業内容

イベントでは、現役のゲームクリエイターや地元で活動するコスプレイヤー・パフォーマーを招いてのフォーラムや座談会などを行ったほか、伝統工芸品である津軽塗・ねぶた絵とポップカルチャーを融合させた作品の展示などを行った。また、子ども向けワークショップを開催し、ゲーム企画書の書き方やゲームデザインの描き方を学ぶ場を創出した。

- 事業実施場所：スペースデネガ、まちなか情報センター
- 事業実施日：平成 26 年 12 月 20 日、21 日
- 参加者数：600 人
- 補助金確定額：484,000 円（事業費：549,847 円）

## 事業による効果

弘前の伝統工芸品や地元の和菓子などとポップカルチャーを融合させるような、弘前ならではの形を見出すことができた。また、県外で一線で活躍しているクリエイターを招きフォーラムやワークショップを開催したことで、サブカルチャーに対し、市民の興味や関心を向ける機会を創出できた。

## 今後の活動展開

子どもを対象としたプロジェクトを立ち上げ、ゲームクリエイターを目指す子どもたちの夢を形にする事業を行っていくほか、このようなイベントを今後も開催していきたい。

## 自己評価

青森県ならではの形でポップカルチャーを発信できたことや、一過性のものでなく継続性をもって今後も続けていける手が見えたことから、一定の成果があったと考える。



フォーラムやパフォーマンスなど内容がぎっしり！



自分の思いを企画にまとめる

## 事業目的

弘前の学生を中心とした若年層が感じている、弘前だから〇〇出来ない、どうせ変わらないという“気持ちのブレーキ”を取り払う事を目的に、東京から各業界の現場で活躍している講師を招き、講演会、座談会、ワークショップを行う。キャリア形成のきっかけと、県外からの視点で弘前の良さを発見・共有することを目指す。

## 事業内容

東京から講師を招き、講演会・座談会・ワークショップを開催した。講演会では、各講師の転機や学生時代に焦点をあて、学生代表とのトークセッションも行った。座談会は、参加者と講師、弘前のキーマンが講演会のアンケートへの回答が行われ、フリートーク形式で活発な意見が交わされた。また、ワークショップでは普段考えない他人の関心事や物事を選択方法などについて考え、以前とは異なる視点で今後のキャリアについて考える場を創出した。

- 事業実施場所：コラボ弘大八甲田ホール等
- 事業実施日：平成26年11月21日、22日
- 参加者数：230人
- 補助金確定額：477,000円（事業費：703,049円）

## 事業による効果

弘前ではさまざまな働き方をしている人の話を聴く機会が少ないと感じている若者が、自分の将来について考える機会を創出することができた。また、同じ地域に住む人同士が刺激し合えたことで、弘前の魅力を再認識し、「弘前で働く」という選択肢について考える機会ともなった。

## 今後の活動展開

多くの市民に対して影響がある事業にしたいので、学外からの参加者を増やすため、会場の選定や開催時間に考慮したい。また、講師は東京からにこだわらず、弘前市で活躍する方や、弘前市出身の県外で活躍する方などを招き、地域の他団体とも連携して開催していきたい。

## 自己評価

講演会では、想定よりも多くの参加者があり、多様な生き方について知ることができたという声が聞くことができ、座談会では、講師の方に積極的に話しかけに行く参加者が多く見られ、講演会よりも踏み込んだ話を聞くことができた。



講演会と座談会の様子



ワークショップはグループにわかれて

**MEMO**